

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：32622

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K17654

研究課題名(和文)乳幼児を育てる母親の「地域の支援につながる力」に影響する要因

研究課題名(英文)Factors influencing the use of regional childcare support services by mothers raising infants

研究代表者

鈴木 浩子(Suzuki, Hiroko)

昭和大学・保健医療学部・教授

研究者番号：40468822

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、乳幼児期の子どもを育てる母親が、自分に必要な育児のサポートを得るために「地域の子育て支援につながる力」に影響する要因を明らかにし、支援のあり方を検討することを目的とした。子育て中の母親を対象とした、インタビュー調査および自記式質問紙調査を実施した結果、影響要因は「育児に精一杯で気持ちに余裕がない」「パートナーの理解」「専門職から情報提供」「専門職から個別支援を受けた経験」などの9項目が抽出された。サービス利用に向けて子育て支援専門職のかかわりの重要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国では、1980年代からの少子化、核家族化、地域社会とのつながりの希薄化により子育て中の母親の孤立が問題となっている。本研究では子育てにおいてインフォーマルサポートを受けにくい状況にある母親が、安心して育児をするために、自分に必要な地域の子育て支援サービスを適切に利用する力を高めることが必要と考え、その影響要因を探索した。結果、保健師、保育士などの子育て支援専門職が母親にあった情報提供、サポート行うことや、母親自身が自分の支援ニーズを認識するためのかかわりが重要であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to identify factors influencing the "use of regional childcare support services" by mothers raising infants in order to get the child-rearing help they need, and to examine how such support should be provided. As a result of an interview survey and a self-administered questionnaire survey targeting mothers raising infants, nine influencing factors were extracted, including "I am exhausted from childcare," "My partner understand the use of services," "I have received information about services from professionals," "I have received individual support from professionals for using services." The study suggested the importance of involvement of child-rearing support professionals in the utilization of services.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：子育て支援 子ども虐待予防 母親の孤立

## 1. 研究開始当初の背景

わが国では、1980年代からの少子化、核家族化、地域社会とのつながりの希薄化により、子育てをする母親の孤立が問題となっている。出産までに乳幼児に接する機会のない母親の増加、育児のサポートをしてくれる家族や近隣住民の不在は、育児不安、育児負担を増大させる要因となっている。母親の孤立、育児不安が、不適切な養育や虐待の要因であることはこれまで国内外の先行研究で明らかになっており、安心して育児をしていくためには、インフォーマルな資源から子育てのサポートを受けづらい状況にある母親を地域の支援により支えていく必要がある。

地域では母親の育児不安や孤立解消のために、妊娠期から子育て期にかけてさまざまな子育て支援サービスの充実強化がはかられてきた。しかしこれらの利用は、母親から必要なサービスにアクセスすることが前提であり、母親に利用や参加の意思がない場合、支援が届きにくい状況が発生する。母親自身が、育児のサポートを得るために必要な支援にアクセスし、適切に利用することができる「地域の子育て支援につながる力」をもつことは、安心して育児をしていくための支援の強化につながると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、乳幼児を育てる母親が、育児のサポートを得るために地域の子育て支援サービスに自らつながり、適切に利用するための「子育て支援につながる力」に影響する要因を明らかにし、利用を促進するための支援策を検討することを目的とした。

## 3. 研究の方法

乳幼児を子育て中の母親を対象とした インタビュー調査、 自記式質問紙調査を実施した。

### インタビュー調査

乳幼児を育てる母親を対象に半構成的インタビュー調査を実施した。対象者はこれまで子育て期間で家族や友人などから育児のサポートが少なかった経験をもつ者、子どもに重度の障害や入院治療を要する疾患がない者とし、4か月から6歳までの子どもを育てる母親11名をA市の地域子育て支援拠点から紹介を受けた。インタビュー内容は、対象者の年齢、子どもの年齢など基本的属性の他、「地域の子育て支援サービスを利用した理由やきっかけ、利用に躊躇したこと」であった。逐語録から、地域の子育て支援サービスの利用に影響する要因に関する文脈を抽出し、質的帰納的に分析した。

調査時期は2018年12月から2019年4月であった。所属する大学の倫理委員会承認を受けて実施した(承認番号445)。

### 自記式質問紙調査

A市の4か月健康診査、1歳6か月健康診査を受診する子どもをもつ母親を対象とした自記式質問紙調査を実施した。質問紙はA市の健康診査案内に同封して1556通郵送し、健康診査会場にて889通(回収率57.1%)回収した。調査内容は、回答者の属性、子育て支援サービス利用の有無、利用開始時期、子育て支援サービス利用に影響する要因(影響要因)に関する31項目の質問等であった。影響要因31項目は、文献およびインタビュー調査から結果から抽出、作成したものである。有効回答884通について、サービス利用有無を従属変数、回答者の属性および影響要因を独立変数としたロジスティック回帰分析を行った。

調査時期は2021年4月から8月であった。所属する大学の倫理委員会承認を受けて実施した(承認番号556)。

## 4. 研究成果

### インタビュー調査結果

インタビュー対象者11名の年齢は、平均35.2(±5.0)歳、対象者の子どもの数は、1人が5名、2人が4名であった。

地域の子育て支援サービス利用に影響する要因は、阻害要因9カテゴリー、促進要因7カテゴリーに整理された。

阻害要因は、「育児はつらくて当たり前」「自分の育児の力不足だと認識」「育児だけで精一杯」「自分の困りごとを自覚できない」「助けを求める発想がない」「相談先を知らない」「育児を否定される恐れ」「サービスに対する不安感」「身近な人、ネットで解決」が抽出された。促進要因は、「情報を得る機会がある」「サービスのイメージができる」「妊娠期からサービス利用」「専門職の介入援助」「母親同士のつながりを求める気持ち」「夫・パートナーの理解」「多彩なプログラムの提供」であった。

以上の結果から、乳幼児を育てる母親は、日々の育児を精一杯行いながら、自分の支援ニーズを自覚できていないことや、育児がうまくいかないことがあっても弱音を吐かずに抱え込んでいることが推察された。

#### 自記式質問紙調査

有効回答 884 通のうち、4 か月児の母親 446 件( 50.5% )、1 歳 6 か月児の母親 438 件( 49.5% )であった。子育て支援サービスの利用経験有り群 638 件( 72.2% )と、利用経験無し群 246 件( 27.8% )を従属変数としたロジスティック回帰分析の結果、影響要因は、“ 育児に精一杯で気持ちに余裕がない ” “ 育児のつらさを分かりあえる人とつながりがほしい ” “ 子育てに関する情報がもっとほしい ” “ 子育て支援サービスをイメージできる ” “ 気軽にサービスを利用できる方である ” “ パートナーはサービスの利用に理解がある ” “ 専門職からサービスの情報提供を受けた経験がある ” “ サービス利用に向けて専門職から個別サポートを受けた経験がある ” “ 子どもが第 2 子以上 ” の項目が抽出された。

子育て支援サービスの利用には、保健師、保育士などの専門職から情報提供、サポートを受けることが有意に関連していた。また育児で精一杯な状態にあることや、育児の情報、他の母親とのつながりの必要性を母親自身が認識することも利用を促すことが示唆された。専門職は、母親がサービス利用のニーズを認識できるかわり、対象にあった具体的なサービスの情報提供をすることが必要であると考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴木浩子	4. 巻 77
2. 論文標題 母子保健における信頼 地域の子育て支援に対する母親の思い	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 652-657
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1664201710	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 鈴木浩子、犬飼かおり、中田晴美
2. 発表標題 乳幼児を育てる母親の子育て支援サービスの利用と育児・サービスに対する思い・経験との関係
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木浩子、村田加奈子
2. 発表標題 乳幼児を育てる母親の「地域の支援につながる力」に影響する要因 - 母親へのインタビュー調査から
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木浩子
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染拡大に伴う子育て支援サービスに関連する要因 乳幼児を育児中の母親の視点から
3. 学会等名 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Suzuki H
2. 発表標題 Comparisons of thoughts childcare and regional childcare support services of mothers with 4-month-old and 1-year-6-month-old children
3. 学会等名 The 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Suzuki H, Murata K, Yaeda J
2. 発表標題 Factors influencing the use of regional childcare support services by mothers raising infants
3. 学会等名 The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関